

山大聖火リレー

山形大学で学んだこと、過ごした日々、
それらはやがてさまざまな成果となって、社会に燦々と火を灯す。
現役山大学生やOBたちが各方面で活躍する姿を追った。



1

1 近年、観光都市としても注目されはじめている青島。海沿いの美しい景観とオシャレな建物が、中国のイメージとは異なる雰囲気を醸し出している。陳さん・真紀子さんご夫妻と、真ん中は真紀子さんのいとこ。



2

2 陳さんと真紀子さんの幸せいっぱいの笑顔が印象的な結婚式の写真。左は新婦真紀子さんのお父様(山形大学OB)。もちろん、花嫁衣装はチャイナドレス。国際結婚らしさが伝わってくる思い出の一枚。



3

3 陳さんの仕事風景。中国は今、かなりの勢いで経済成長を遂げており、ビジネスチャンスにあふれている。この好機を追い風に、山形大学で学んだ豊富な知識をフルに生かして経営手腕を振るっている。

山大での出会いから国際結婚へ。 互いを理解し合うことで愛は国境を越えた。

陳偉・佐藤真紀子夫妻 製造工場経営

大学時代に知り合って結婚するカップルは少なくない。中国からの留学生陳さんと函館出身の真紀子さんの出会いの場となったのは山形大学。同じ人文学部、図書館で会うことも多く一年生の頃から顔見知りではあったものの、言葉を交わすようになったのは4年生になってから。卒業後は、陳さんはそのまま山形の大学院へ、そして真紀子さんは北海道大学の大学院へ進学。その大学院生時代に2人は国際結婚をしている。

陳さんは日本留学の最初の3年間を東京で過ごし、日本語を習得した後に、自然豊かな環境の中にある国立大学を求めて山形にやって来た。大学と大学院の6年間、山形で日本経済論、世界経済論、会計学、経営学等を学び、アルバイト経験を通して自

分でやっていけるという自信もつけた。地域の人々との交流にも積極的に参加し、日本の文化や山形の美しい自然にもたっぷり触れることができた。そして少しずつ日本を理解し、日本が好きになっていったという。山大時代に得たさまざまな知識や経験が企業人としての成功につながっており、今後はそれらを中国の発展や日中関係の友好にも役立てていきたい考えだ。

一方、真紀子さんが山形大学を選んだのは、山大出身の父親の強い勧めがあったから。大学に入ったら、入試のための勉強ではなく、真の学問を楽しみたいと考えていた真紀子さんにとって、山形の授業はどれも楽しく新鮮で、気がつけば卒業時には必要単位の2倍以上を取得していた。だから

とって、勉強ばかりしていたわけではない。学食でバイトをしたり、英会話サークルESSのディベート部門で他大学とのバトルに臨んだり、友達と格安旅行をしたり、プライベートもとても充実していたと当時を振り返る。そんな2人が中国で暮らすようになって6年。折しも中国はダイナミックな変化のまっただ中。陳さんと真紀子さんが日本で、大学で学んだことがさまざまなカタチで生かせる時代。陳さんはビジネスに、そして真紀子さんは週5回大学に通って中国語や中国文学を学ぶ傍ら、日本人婦人会の活動に参加する日々。国や文化の違いを乗り越えて理解し合うことの大切さや素晴らしさ、そして学び続けることの謙虚さを二人の生き方に学んだような気がする。

交流の成果